

次の内容は、道連だより第8号から抜粋したものです。



Ski Association of Hokkaido Newsletter No 8 15・June・2013

## 北海道スキー連盟だより第8号

公益財団法人北海道スキー連盟 〒062-0905 札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1 北海道立総合体育センター内

### 北海道スキー連盟は公益財団法人に認定されました。

平成20年12月1日に新公益法人制度が施行され、本連盟は評議員会、理事会で協議し「公益財団法人」に移行することを決定しました。

その後「移行準備委員会」を設置して準備を進め、所定の手続きを行った結果、平成24年7月23日、北海道スキー連盟は北海道知事の認定を受けて「公益財団法人」になりました。

従来の財団法人とは基本規則や組織設計などいくつか異なる点があります。



#### 1、定款に定めた目的、事業

財団法人では、組織運営の基本規則は「寄附行為」でしたが、公益財団法人では「定款」と名称が変更になり、目的、事業も次のように変更になりました。

(目的)

この法人は、北海道のスキー普及振興のため、加盟団体等と協力して必要な事業を行い、スポーツの振興に寄与するとともに、道民の心身の健全な発達を促し、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

(事業)

この法人は、前条の目的を達成するため北海道において、次の各号に掲げる事業を行う。

- 1 スキーの講習会、検定会等の開催
- 2 スキー指導者の養成と資質の向上を図るための研修会等の開催
- 3 スキー選手の技術力向上と選手層の拡大を図るための強化合宿等の開催
- 4 北海道スキー選手権大会の開催及び各種大会への協力
- 5 スキー技術、スキー用具及び施設の調査研究
- 6 スキーの普及振興に関する功労者表彰
- 7 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業



#### 2、評議員の選出と任期、職務

従来、評議員は加盟団体から1名推薦し、理事会の承認を得て会長が委嘱していましたが、公益財団法人としての最初の評議員は「各ブロック」から候補者をご推薦いただき、外部委員3名、現監事1名、現評議員1名、計5名による「最初の評議員選定委員会」で審査の上、決定することとなりました。

評議員の定数は、定款で33名以上37名以内を置くことと定められています。この規定に基づき「最初の評議員選定委員会」が平成23年9月4日及び12月23日の2回開催され、最初の評議員35名が次のように選出されました。( )内に推薦ブロックを記載しました。

悪七廣雄氏 (北空知ブロック)	安土正美氏 (後志ブロック)	石川孝夫氏 (上川ブロック)
大石 彰氏 (網走ブロック)	木下義信氏 (十勝・釧路・根室ブロック)	黒岩岳雄氏 (上川ブロック)
小山 薫氏 (後志ブロック)	近藤 健氏 (渡島・檜山ブロック)	今野靖政氏 (石狩ブロック)
齋木雅信氏 (石狩ブロック)	佐伯義晃氏 (留萌・宗谷ブロック)	坂本雅昭氏 (胆振・日高ブロック)



## 指導者研修会の毎年参加を決定

教育本部長 松 本 徹

5月25日に行われた第2回理事会で懸案になっていた指導者研修会の原則毎年参加を決定しました。

S A J 指導者規程では、資格停止の条件として「指導者研修会を2年続けて未修了の場合」を示していますが、このことをもって2年に1回研修会を受講すればよいと判断されている現状があります。



一方では指導者の義務として、「指導者の任務を完遂するため、積極的に指導者研修会に参加するものとする」と規定されており、指導員資格を持つ指導者には不断の研修が求められています。さらに、用具の変化やスキーを取り巻く環境の変化に対応する技術の変化はめまぐるしく、その技術を習得するためには毎年の研修が必要であると判断して、北海道の指導者の皆さんには数年前から毎年参加の大切さを訴えてきました。

しかし、毎年の参加となれば参加料が2倍となり経済的な負担が大きすぎる。仕事の関係で毎年参加することが難しいなど、指導者個々人の事情があることも無視できない現状です。加えて、2年以上続けて研修会に参加できずに、資格停止状態から喪失の状況になっている方々が増えてきている状況もあります。

これらの状況と望ましい研修機会の確保を図るために、次のような方策の下で指導者研修会の毎年参加を理事会で決定しました。

### 方策1 研修会費用を2,500円とする

- ・毎年参加による経済的負担を軽減するために、研修会費をこれまでの半額とし、やむを得ない事情で欠席する場合も含め毎年納入する。
- ・有資格者は年次登録料と同時に納入する。
- ・功労指導員等の研修会を免除される者は徴収しないが、研修会に参加する場合は申込書とともに納入する。
- ・ブロック研修会、S A H 冬季研修会に参加する道連役員、S A J 技術員、S A H 技術員は徴収しない。

### 方策2 資格喪失を防ぐ手立てとする

- ・仕事や健康上の問題で毎年参加が出来ない者は活動休止届けを提出し、適当な対応の後、2年に1度は研修会出席扱いとする。(適当な対応は別途指示)
- ・この取扱いにより、研修会不参加を理由とした資格喪失を防ぐことができる。

今後、この決定を指導者の皆さんに伝達し、理解を得るために、事務担当者会議等で十分に説明をし、混乱が起こらないようにしていきたいと思っておりますので、ご質問等につきましてはとりまとめてその機会にお寄せください。

## 68秋田国体で北海道は天皇杯を獲得しました。



第68回国民体育大会冬季大会スキー競技会は、平成25年2月16日から19日の間に秋田県鹿角市花輪スキー場で開催されました。

北海道スキー連盟は、小林俊勝総監督（本連盟副会長）以下、種目監督4名、コーチ10名、選手67名、計81名で選手団を編成し派遣した結果、男女総合成績193,0点で1位となり天皇杯を獲得しました。また女子は総合成績58,0点で2位となりました。

8位までの入賞者氏名は次のとおりです。

### ・クロスカントリー

成年男子A	2位	清水康平(JR北海道)	3位	柏原暢仁(陸自冬戦教)	7位	櫻井 毅(陸自冬戦教)
	B	3位 清水目淳(陸自冬戦教)	4位	齊藤慎弥(陸自冬戦教)	7位	成田大助(2戦車富良野)
	C	5位 福士鎮顕(陸自冬戦教)	6位	江川 聡(遠軽自衛隊)	8位	長谷川孝博(美深高等学校)
少年男子	4位	松村亜斗夢(名寄高校)				
成年女子A	2位	古谷沙理(早稲田大学)				
	B	5位 阿部奈津子(陸自冬戦教)	6位	沼田貴美(北部方面衛生隊)		
少年女子	8位	田中ゆかり(旭川大学高校)				
成年男子リレー	1位	清水目淳 柏原暢仁	齊藤慎弥 清水康平			
女子リレー	3位	滝澤空良 田中ゆかり	古谷沙理 蜂須賀明香			

### ・スペシャルジャンプ

成年男子A	1位	渡部弘晃(日本大学)	3位	鈴木 翔(旭川大学)	7位	田仲翔大(加森観光&井原水産)
	B	1位 細山周作(雪印メグ)	4位	高柳太郎(日本空調)	8位	吉岡和也(土屋ホーム)
少年男子	1位	佐藤幸椰(札幌日大高校)	2位	西方慎護(札幌日大高校)	3位	渡辺知也(下川商業高校)
	5位	渡部陸太(札幌日大高校)				

### ・ノルディックコンバインド

少年男子	4位	古賀翔大(東海大学第西高校)	5位	馬淵 点(下川商業高校)	6位	近田隼人(下川商業高校)
------	----	----------------	----	--------------	----	--------------

### ・ジャイアントスラローム

成年男子A	1位	成田秀将(東海大学)	2位	新 賢範(東洋大学)		
	C	3位 木内忠幸(消防本部)	4位	塚崎 宏(月形郵便局)		
少年男子	1位	廣島聖也(双葉高校)	4位	工藤督宗(札幌第一高校)	5位	降旗一樹(北照高校)
成年女子A	1位	岡本乃絵(東海大学)				
	B	3位 北崎沙穂(札幌市交通事業振興公社)				
少年女子	2位	石川晴菜(北照高校)	5位	安藤 麻(北照高校)	6位	小川彩也香(札幌第一高校)



## 国体冬季大会スキー競技会の表彰式

表彰式は、男女別、組別（成年ABC、少年）に行われます。各組8位まで表彰状が授与されますが、開催地によってその地方の特産物が副賞として授与されることもあります。

秋田国体では、かづの牛、淡雪こまち、北限の桃、かづの産そばなどが授与されたようです。



### ジャイアントスラローム表彰式

ステージ上の右は成年A組1位の成田秀将選手、左は2位の新賢範選手、左端の嬉しそうな人は小林俊勝総監督



### スペシャルジャンプ表彰式

後列3名の真ん中は少年組1位の佐藤幸椰選手、左は2位の西方慎護選手、右は3位の渡辺知也選手、前列左から2番目は5位の渡部陸太選手



### スペシャルジャンプ表彰式

1位のステージで誇らしげに手を挙げているのは成年A組1位の渡部弘晃選手、右の3位は鈴木翔選手